

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374000384		
法人名	医療法人静巖堂医院		
事業所名	グループホーム好日庵 3階		
所在地	愛知県新城市副川字大貝津13番地		
自己評価作成日	令和4年12月29日	評価結果市町村受理日	令和5年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の大きな出来事として、三重県津市で開催された全国GH大会に利用者さん2名と職員3名で参加する為に一泊の旅行も兼ねて「お伊勢参り」に出掛けたことです。今まではホーム主催でご家族の方と一緒に日帰り旅行や一泊旅行をしてきたのですが、新型コロナ感染症が広まりできなくなっていました。感染状況を見て、ご家族の方の理解と協力を得ながら実現に至りました。公共交通機関を使つての旅です。いろんなことを想定して事前準備を行い事故もなく出かけられたこと。その後の利用者さんの生活にも活気がでて自信につながり大変良い影響となった。「当たり前の生活を当たり前」にコロナ禍で難しい状況であるが、生活者としてその方の視点で望むことを見つけ実現できるように支援するところにGHの良さがある事を改めて感じた。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2374000384-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年2月1日		

ホームでは、職員間で可能な活動等を検討しながら、地域の方との交流や利用者の外出を継続する取り組みが行われている。運営推進会議についても基本的に実施する取り組みが行われている。今年度の取り組みとして、大型バスを借りて県外のテーマパークに出かける取り組みが行われており、感染症対策を実施しながら利用者の楽しみや思い出の機会につなげている。家族との交流については、ホームで様々な工夫が行われており、今年度については、家族から意見等を出してもらいながら、利用者や家族の夢を叶える取り組みが行われており、感染症問題が続いている中でも、家族や外部の方との関係が継続できるような支援が行われている。また、当ホームは同一建物内に医療機関に併設して運営していることもあり、医療面での柔軟な対応が行われていることが特徴でもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は事務所の常に見えるところに掲示している。困難な事例があったり、ケアに生かす待った時には原点に戻る意味で、理念に立ち止まるように働きかけている	利用者一人ひとりがその人らしい生活を継続することができるように、職員間で利用者への支援を考えながら、基本理念の共有につなげている。年間目標を立てながら、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	小人数ではあるが地域の花壇の整備に参加したり、回覧板が回ってきたときには参加できそうな地域の行事には、積極的に参加している（川そうじ・バス停の掃除等）	地域の方との交流については、感染症対策を行いながら継続する取り組みが行われており、小学校との交流を継続している。また、併設の医療機関を通じた地域の方との交流も行われており、地域の方の作品を掲示する取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者がキャラバンメイトであり、地域の方にサポーター養成講座を開いて8名の方が参加され、そのうちの3名は、ステップアップ講座に参加した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一回開催している。そこで出された意見などは、口頭で職員に伝えているが、職員全員に周知までできるとなるとよい。指摘されたことがサービスの内容に生かされている実感は乏しい	ホーム内に広い空間が確保されていることもあり、会議については継続して実施しており、会議の関係者との情報交換等が行われている。複数の地域の方の参加が得られており、地域の方との定期的な交流の機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括センターの職員が、運営推進会議の構成員であり会議の中で専門知識を持ち寄り、相談や意見交換をしている。困難事例について、高齢者支援室に相談し、アドバイスをいただいた	感染症問題が続いていることで困難になっているが、市担当部署とも連携した「RUN供」が行われており、ホームからも協力する取り組みが行われている。また、デイサービスやショートステイを実施しており、地域包括支援センター等との交流も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月、合同ミーティングで身体拘束について11項目からチェックをして情報交換と検討を行っている。「ひょっとして虐待？」という研修を行い日頃のケアで気が付かない点など良い振り返りができた	ホーム内は広い空間がつけられているが、身体拘束を行わない方針のもと職員間で利用者を見守る支援を継続している。また、定期的に身体拘束の内容をチェックし、職員の意識向上につなげる取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待の多くは、認知症に対する知識の不足やケアの中での精神的なストレスが多く起因している点から、日頃の職員の職場環境や困難事例、人間関係などに常に注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人の制度を活用している人は少ない。家族の方でグレーな方がいて気にはなっているが、ホームとしてどこまで働きかけていいのか踏み込めないでいる事例がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に、契約書や重要事項説明書を基に分かり易く説明を行っている。今までにそのことでのトラブルはない		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時等やモニタリングの時を利用して、日頃の思いを聴く機会が多くある。毎月一回発行しているホームだよりでは、ホームで起きていることなどを情報の伝え、話しやすい関係づくりを目指している	当ホームでは、感染症問題が続いている中であっても、様々なテーマで家族との交流の機会をつくり、家族から要望等を出してもらい取り組みが行われている。家族からの要望等は管理者が把握している。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングや各ユニット合同ミーティングなど、お楽しみ会の運営を職員が自主的に行うなど意見交換ができる機会がある	毎月の会議の他にも、日常的にも職員間で情報交換を行う時間をつくり、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、今後に向けて、リーダーにも役割を果たしてもらおう等、職員一人ひとりの把握につなげる取り組みも行われている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアアップの研修の機会や特定処遇加算など給与につながりやりがいに繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	一人一人の職員の力量や今後の課題など「人材育成達成度チェック表」を活用し、個人の課題を自ら見つけ取り組めるようにしている。また個人にあった研修の機会や事例検討会では職員が全員参加できる環境を大切にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	全国認知症GH大会に参加し、交流の機会があって日頃のケアの振り返りができた。認知症カフェに参加して、交流を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に本人の住んでいる家を訪問し、その環境や周りの状況などを把握して、ホームでの居室の環境づくりに生かしている。何に困ってどうしたいのかを本人視点で情報を集めて、介護計画立案時に生かしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居における家族の不安な気持ちやホームに入れることの罪悪感が無いように常に情報や連絡を密にして、家族の思いや希望を聴くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所による生活環境の変化のダメージが少なくなるように、まず日頃の生活をゆったりと本人のペースに合わせるように、必要な支援を職員で共有している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人には説明と同意を求められるように声掛けをして、できることは無理のないように見守り、「一緒に」とか「有難う」の言葉を大切に接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームでできることと家族にしかできないことがあることを、一緒に話し合いながら、ご本人を中心に協働して関わってもらうように働きかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の付き添いで今まで通っていた美容室に行ったり、コロナかではあるが感染予防をしっかりとて面会は短い時間であるができるようにして、馴染みの方との過ごす時間を大切にしている	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、家族の協力も得ながら馴染みのある場所に出かける等、可能な範囲で交流が行われている。また、行きつけの美容院に出かけたり、身内の方の葬儀に出かける等、関係継続につながる支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握しテーブルの座席や感興づくりに努めた。利用者同士が孤立しない様に話しやすい雰囲気を作るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	GHはある面では、家族にとっても本人にとっても家であることを強調して、介護の対象でなく生活の継続で、普通の家で過ごしているような雰囲気と支援をサービスの軸にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や関わりの中から、本人の気持ちを汲み取るようにしている。自分の気持ちを伝えることができない利用者さんに対しては、尊厳を重視した関わりが特に必要であることを伝えている	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等の把握につなげている。カンファレンスの他にも日常的にもショートミーティングの時間をつくり、利用者や家族の意向等の検討を行い、アセスメントや日常の支援への反映につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の方から、生活歴からまたホームでの生活のエピソードを伝えることで家族から有用な情報をもらえることも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日課としての鍛冶屋役割リレーションでの活動や参加を通して状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の介護記録では短期目標のチェックと記録。毎月のミーティングではケアの経過などを話し合い月末では担当者が評価しケアマネに提出している	介護計画の見直しについては、利用者の変化等に合わせて行われており、現状、3か月～1年の間で実施している。日常的にも支援内容に関するチェック記録を残しながら変化等の把握を行い、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアの中で築いたことを問題提起し、それぞれに係ったケアの実践・結果・考察などを介護記録に残してゆくのが乏しく、今年度課題として取り組んだが来年度も継続して取り組む必要がある。介護記録の形式も大切な要素である		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	デイサービス・ショートステイを組み合わせ、そこから入所に至ったケースが多かった。利用時間や食事など本人や家族の状況を配慮してサービスを提供した		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事や催し物、また結カフェなどに参加することも人との交流の幅を広げることにつながっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	小さな変化や気づきなども受信時に伝え適切な医療が受けられるよう情報交換している	運営母体が医療機関でもあることで、協力医による医療面での柔軟な支援が行われているが、他の医療機関への受診支援等も行われている。管理者をはじめ、ホームに看護師が勤務しており、協力医との連携や医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	症状や訴えなどに対してどのようなケアが適切であるかなどの専門的な指示や指導を受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、継続したサービスが受けられるように情報の提供を行っている。情報交換では必要時ケア記録の写しや経過記録などの情報を提供して診療に役立ててもらっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	急に亡くなられてしまったケースではあり反省点も多くあったが、事前確認書で家族や本人の意向の記録に残し、また毎年センター方式の本人の気持ちシートで確認していたため、そのことが非常に役立った。家族からは今までのケアを振り返りとても感謝された。	ホームでは、医療機関と併設している利点も活かしながら、利用者の看取り支援にも対応しており、複数の方がホームで最期を迎えている。利用者の身体状態等にも合わせた家族との話し合いが行われており、ホームで支援可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事例検討会では、緊急時のケアの研修もしたが、その緊急が起こる前のその利用者ごとのリスクの見極め方を知ることが重要で、疾患・服薬している薬・バイタルなどからリスクを学び日々のケアに役立てている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の方との合同災害訓練を年に一回実施している。しかし3階から1階まで歩いて降りられる人の把握や援助方法などが十分でなかったため、課題となり日々のケアの中に取り入れて実践している	年2回の避難訓練の他にも、毎月「災害の日」として防災に関する確認を行う取り組みを継続している。夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われている。また、様々な災害を想定しながらホーム内に必要な備蓄品を確保する取り組みも行われている。	ホームでは、近隣地域の方も含めて、様々なテーマで災害に関する取り組みが行われている。今後の感染症の状況もみながら、ホームの取り組みが継続されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけや口調に関して利用者さんに合った声掛けをしている。自尊心を傷つけないように特に入浴や排泄介助には十分注意している	職員一人ひとりが利用者を尊重しながら、その方の希望ややりたいことを尊重するように、管理者からも言葉遣い等を意識する働きかけが行われている。職員の接遇にもつながる事例検討等も行いながら、職員の振り返り等につなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ゆっくり待つことを意識し、表出しやすい環境を作る		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員が決定するのではなく、必ず本人の気持ちを聴くことを優先している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的には理容の出張や行きつけの美容室に出かけたり、使い慣れた化粧水を使ったり、時にはマニキュアを塗ったりしておしゃれを楽しみ、洋服も本人に選びやすいように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立は、利用者さんと一緒に料理の本を見たりして立てている。食事の準備やかたづけは、その方の能力を見極めながら一緒に行っている	職員間でメニューを考えながら、利用者の好みや嗜好等の配慮も行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。また、季節等にも合わせた食事の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	蛋白質について取り組み、勉強会をした。蛋白質を意識した献立を立て、また水分摂取量にも注意している。食事摂取量の少ない方は補助食品で栄養を補っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	定期的に歯科医師の口腔内のチェックが行われ歯科衛生士さんからのアドバイスも頂き、毎食後の個別のケアに生かされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	尿失禁がある時には、その原因を探るためのチェック表から排泄状況を把握してそれにあったケアを提供し、声掛けしながら自立に向けて支援している。また経済面から適切な排せつ用品についての検討も行っている	ホームでは、フットミニアインフ等、職員間で情報交換の時間をつくりながら、利用者一人ひとりに合わせた排泄に関する支援が行われている。トイレでの排泄を基本にした支援や医療面での支援や事例検討等も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味の場合には、擦分摂取や食事の工夫、イージーファイバーを利用したり、起床時の水分摂取や食後のトイレ誘導など工夫し、なるべく下剤の服用を市内で自然は威厳を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日の設定はあるも本人の気持ちが向かない日には、入りたいためのタイミングを大切に支援している	利用者の意向等にも合わせながら、1日おきに入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方も声かけ等を検討しながら、定期的な入浴につなげている。また、市内の温泉の湯を活用した入浴や足湯等も行い、利用者の楽しみにつなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の体調やその時の状況に応じてゆったりと入眠できるように。寝る前のケアが安心につながり一日の中で大切にしたい時間帯であると考えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の薬リストは、いつでも見れるようにファイルしており、体調の変化があった場合は確認できるようになっている。また疑問があった場合には薬剤師さんとも情報交換がしやすい状況である		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ではできないことも、仲間と一緒に楽しいと思ったりすることが自身につながっている。月に一回のお楽しみ会は、2階や3階の交流の場であり、司会役や接待係など楽しく参加してもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	自然が多い環境で季節に合った外出などが楽しめる。しかしコロナ禍であることで少人数で出かけたとして、順番に楽しめるように支援している。湯谷温泉の足湯は楽しみの一つである	ホームでは、職員間で検討を行いながら、様々な場所に出かける外出支援が行われている。今年度については、県外で開催された行事に参加したり、県外のテーマパークに出かける等、感染症対策を行いながら利用者の外出支援が行われている。	ホームでは、感染症問題が続いている中でもあっても、様々な外出の取り組みが行われている。ホームの継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは事務所で保管している。受診や食べる時などは、支払いを心配される方もいるため、時々ではあるが、受診の支払いの時は自分で払ってもらうことをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を掛けたいときはいつでも自由に掛けられるように支援している。また年賀状など家族に出すのを職員が支援し、家族の方から喜ばれている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今月の言葉として、利用者さんの書いた習字や絵を掲示している。リビングには季節の飾りを利用者さんと一緒に作り掲示して季節感を出している	ホーム内は広く、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。リビングや通路の壁面には、季節等にも合わせた飾り付けや利用者の作品を掲示する等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールのあちこちにソファや椅子が置いてあり、決まった場所にとらわれず好きな場所で過ごし、他の利用者さんと雑談したりしているのも見られる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や寝具・花瓶や小物入れ・本など一人一人が好きなものを飾ったり、取り入れたりして過ごされている	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室については、ユニット毎に備え付けられた設備(家具類、トイレ)等が異なっていることも特徴でもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム全体がバリアフリーになっており、共有のスペースは見通しが良く、どこに何が置いてあるか分かり易い。手すり・照明・杖歩行や歩行器、車いすの方でも自由に移動しやすい		